

〈詩〉

「わたしのすきなゆき」

北海道旭川盲学校

小学部六年

武田 唯花

私の言葉で

あの子は笑っている

私のおかげで

あの子は楽しめている

あなたの言葉で

あの子はきずついている

あなたのせいで

あの子は悲しんでいる

人によって

人の見え方は違う

ゆきがふったら、ゆきだるまつくろう。
ゆき山で、そりすべりしよう。
ゆきのうえをあるくと
ぎゅっぎゅっするね。
ゆきがふったら、うれしいな。
スキーウェアと、てぶくろと、ぼうしをかぶって
さあ、ゆきあそびにいこう。
スコップをつかって、ゆき山をつくろう。
ゆき山つくったら、そりすべりできるかも。
たのしみだな。

「気づかないまま」

北海道釧路鶴野支援学校

中学部三年

向山 佑

あの子はどこかで

助けを求めている

自分でもわからないほど

小さくわかりにくく

でもみんな気づかないまま

あの子は

静かに泣いている

「タータン」

北海道美深高等養護学校 二年

梅田 大一

大会前日 バクバク

走る前のアップ ドクンドクン

走る前 ドキドキ

スタブロだと カシヤンカシヤン
ランニングシューズだと グシヤグシヤ
スパイクだと グサングサン
雨だと バシヤバシヤ
ピストルの音 バクンバクン
ゴールの後 フラフラ

「冬道」

北海道美深高等養護学校 二年

柴田 勇飛

こおった道 つるつる
次は走ってみようかな ぐらぐら
走っていたらころんでしまった どん
立ち上がって えへへ

「ぼくは チャイム」

北海道手稲養護学校

中学部一年
西山 優馬

ぼくは チャイム
決まったときに
キンコンカンコン
水を飲むひまなく
みんなに知らせる
キンコンカンコン
授業が終わった
みんなが喜ぶ
先生も喜ぶ
キンコンカンコン
みんなが帰る
つかれて帰る
ぼくが一番 つかれたけれど

「ウミユリ」

北海道手稲養護学校三角山分校

高等部三年
小間 琉聖

人間が海底を歩いているまるで
なんでも食べるカニみたい

木がゆらゆら揺れているまるで
波で動いている昆布みたいに
建物が群生しているまるで
時間をかけて集まった珊瑚礁みたいに
動物が自由奔放に泳いでいるまるで
大きい魚みたいに
虫が群れを成して泳いでいるまるで
小魚みたいに
陸に水平線が広がっているまるで
広大で綺麗な海みたいに
そんな広い海に自分たちはいるまるで
人間の黒く濁った過去を掃除するみたいに
花が見ているまるで
太古から海を見ていたウミユリのように

〈短歌〉

明るい心と体 はずみまず
ノリノリロックを 聞いて最高

北海道札幌視覚支援学校 高等部三年

雨の日は 空がどんより してるけど
いつも明るく 過ごしていたい

黒木 杏音

好きな歌手 曲のセンス とても良く
希望を全部 もたせてくれる

人生は すれ違いや 誤解など
たくさんあるが そんな時もある

北海道札幌視覚支援学校

高等部三年

中村 蕾咲

北海道札幌聾学校

中学部二年

松井 悠人

仮面付け 今日もまぎれる 人の群れ
虚しさだけが 声なくしみる

「秋」

あきの風 紅葉の色 たくさんの
種類豊富 みててきれいだ

いつわりし 姿の奥に 我はなし
淋しき胸に 風ぞ吹きけり

「青春」

好きな人 隣にいと 大切な
魔法がかかる 笑顔になれる

北海道函館盲学校

中学部一年

佐藤 好珠

北海道今金高等養護学校

一年

岡林 優羽

大空を もし飛べたなら 羽ばたいて
鳥を追いかける 風のようにね

夏の浜 空の下にて 肉やくも
夏の虫飛び きがきじやない

北海道紋別高等養護学校 二年

大場 寛夢

野郎たち 夜遅くまで こそこそと
なにしているの 恋バナですよ

あれあれれ なぜか合わない 小遣い帳
計算ミスか おぼけのせいかな

北海道中札内高等養護学校幕別分校 二年

高木 響希

北海道中札内高等養護学校幕別分校 二年

橋本 知怜

水族館 優雅に浮かぶ クラゲ見て
モヤった心が 穏やかになる

息を呑む スカイツリーで 見る景色
心に残る 東京の空

北海道中札内高等養護学校幕別分校 二年

嵐 真愛

北海道中札内高等養護学校幕別分校 二年

I・H

サンガラス 暗くて見えない 夢の国
夜に買ったなら 意味なさすぎ

へ 俳句・川柳 へ

北海道中札内高等養護学校幕別分校 二年

岡 久貴

秋夜景 街は明るく 竹暗し

北海道高等養護学校 二年

西村 琉芽

宵の秋 ユニバの光 息をのむ

さくのそば ダチヨウが見てる こちらがわ

北海道札幌高等養護学校 二年

永宮 泰河

北海道高等聾学校 二年

丹波 彩花

北海道札幌稲穂高等支援学校 二年

西尾 光優

星月夜ほしづきよ 美しい空 きれいだな

無い無いと 慌てる前に 備えとけ

北海道札幌あいの里高等支援学校 三年

福永 康太

北海道札幌聾学校 小学部五年

佐々木 夢姫

夕焼けの ひかりが作る 長い影

大丈夫？ 対策せずは 手おくれだ

北海道札幌あいの里高等支援学校 三年

I・Y

北海道釧路鶴野支援学校 高等部三年

K・K

日ハムよ 来年こそは ビールかけ

避難所で やつと出会えた 仲間たち

北海道札幌あいの里高等支援学校 三年

松本 優奈

北海道千歳高等支援学校 一年

本間 唯愛

生きていて 君の笑顔に また会える

鮭達は 海から川へ ひとくろう

北海道札幌あいの里高等支援学校 三年

山木 森太

北海道千歳高等支援学校 一年

林 宥斗

集めよう 防災情報 最新の

あきがきた はっぱがあかい かえりみち

北海道札幌あいの里高等支援学校 三年

I・S

北海道千歳高等支援学校 一年

中村 剛琉

学校で 走るの寒い 冬の空

仕事中 メモ書けなくて カラ返事

北海道千歳高等支援学校 一年

上垣 碧志

北海道北斗高等支援学校 三年

池田 凌

春一番 さくらがさいて きれいだな

青ざめる 実習中断 六日目に

北海道北斗高等支援学校 三年

井原 愛菜

夜のみち 森のくまさん くちづさむ

北海道北斗高等支援学校 三年

滝川 花音

最悪だ インバウンドで バス遅延

北海道北斗高等支援学校 三年

松井 大翔

午後からは ひとりぼっちの カップ詰め

北海道北斗高等支援学校 三年

吉野 みらい

「季節の変わり目」

朝の風 秋から冬へ 寒すぎる

北海道今金高等養護学校 二年

高橋 悠太

「自然のありがたみ」
肌寒い 紅葉の秋 最高だ

北海道今金高等養護学校 二年

法量 亮

「恋し(かなし)」

クリスマス 彼女といたい 二十五日

北海道今金高等養護学校 二年

佐藤 秀真

汗をかく日 サイゼリヤにて 友と休憩

北海道美深高等養護学校あいべつ校 二年

河野 初音

メイドカフェ 顔かわいくて コミュ強だ

北海道新得高等支援学校 二年

K・R

冬げしき こたつからみる 家族達

市立札幌みなみの杜高等支援学校 二年

工藤 陽斗

パチパチと 線香花火 光まう

北海道中札内高等養護学校 三年

佐々木 もも

夏祭り たいこの音が ひびいてる

夏休み 晴れた青空 旅日和

北海道中標津支援学校 高等部一年

中村 開

北海道拓北養護学校 小学部五年

井上 碧十

秋祭り 屋台いっぱい 腹いっぱい

フェンス越し かかし見守る 夏畑

市立札幌みなみの杜高等支援学校 二年

清野 由菜

花盛り 微笑みくれし 八期生